

吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会議事録

日 時 平成27年5月26日（火）午後7時00分から午後8時40分まで

場 所 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 2階会議室

1 協議会次第

(1) 開会

◆館長の挨拶

(2) 議事

- 1 小学生の利用について
- 2 各委員会からの報告・意見交換について
- 3 その他
- 4 次回の開催日程について

(3) 閉会

2 出席委員（13人）

広瀬委員・菊池委員・若槻委員・上茶谷委員・奥野委員
木村委員・白銀委員・中家委員・村松委員・山出委員
中矢委員・宮委員・長島委員

3 事務局出席者

山本 智也 （子育て青少年拠点夢つながり未来館館長）
今川 学 （子育て青少年拠点夢つながり未来館副館長）
伊藤 尊之 （青少年活動サポートプラザ主査）
谷口 恵子 （山田駅前図書館主査）
青柳 成和 （のびのび子育てプラザ主任）

4 議事録

(事務局A)

本日は、お忙しい中お集まりいただきお礼申し上げます。

それでは、事務局B一言よろしく申し上げます。

(事務局B)

皆さんこんばんは。当館も開館から4年が経過しまして、これからしっかり中身を充実させていきたいと思っておりますので、本日も忌憚のないご意見をいただければと思います。

よろしくお願いたします。

(事務局A)

ありがとうございます。

議事に入ります前に、人事異動に伴い行政委員に変更がありましたのでご紹介をさせていただきます。青少年活動サポートプラザの事務局Cです。簡単で結構ですので、自己紹介をお願いします。

(事務局C)

挨拶

(事務局A)

ありがとうございます。

先ほどご紹介させていただきました青少年活動サポートプラザの事務局Cをはじめ、人事異動により事務局も交代がございましたので、紹介させていただきます。

今まで、同協議会に出席させていただいておりました山田駅前図書館の事務局Dの後任としまして新たに山田駅前図書館に事務局Eが、のびのび子育てプラザの事務局Fの後任としまして、事務局Gが新たに事務局として出席させていただいております。

(事務局E)

挨拶

(事務局G)

挨拶

(事務局A)

ありがとうございます。

それでは、早速議題の方を進めてまいりたいと思いますので、若槻会長よりよろしくお願いいたします。

(会長)

それでは、議事に入ります前に、本日の資料の確認について事務局よりお願いします。

(事務局H)

資料確認

(会長)

では、議事1の「小学生の利用について」進めてまいりたいと思います。本議事ですが、前回の運営協議会の中でご意見があり、今回の運営協議会で議題として皆様で考えてはどうかというご提案もいただきました。この議事について事務局より説明がありますので、よろしくお願いいたします。

(事務局A)

では、資料1に基づきご説明させていただきます。

前回2月16日の運営協議会で活発なご意見をいただきました。

小学生の利用、特に低学年の利用について、のびのび子育てプラザの利用対象者は学齢前の幼児であるために、これまでののびのび子育てプラザを利用していたのに4月1日に小学生に上がった瞬間にいきなり利用ができなくなるということで、特に兄弟で下の子が幼児で上の子が小学1年生になったといった場合、未来館と一緒に来ることができない、また一緒に来ても上の子だけエントランスで遊ばせるという方もいらっしゃる、のびのび子育てプラザから見えないので不安だという利用者からの要望があるということがお話の発端であったと思います。

この対策として、具体的に意見も出ました。

まず、エントランスとのびのび子育てプラザの遊び広場との間のすりガラスを透明にできないのかなという意見です。

要するに、エントランスで遊んでいる子の動きを中からわかるようにできないのかというのが一つでした。

それと、3階ロビー、いわゆる青少年の居場所で低学年の子の面倒を見てもらえないか、親御さんが安心して預けることができたという意見です。

それから、そもそもの話になるのですが、のびのび子育てプラザの中に小学生が入れないのかどうかというのも検討の材料であったかと思います。

そこで、資料1をご覧いただきたいのですが、小学生の低学年対策として、行政側でこの間議論してきたこと、同時に今日議論していただきたいこととして、4項目を示させて

いただきました。

まず、1ののびのび子育てプラザを小学生が利用することについてですが、これについては前回の運営協議会でもお話がありましたけれども、乳幼児がいるところに小学生が入ってくるということについては危険だという意見が実際に親御さんからございます。

また、施設を管理する立場といたしましても、危険が伴う以上、実現は難しいと考えております。

2のエントランスとのびのび子育てプラザとの間のガラスについてですが、本市の建築の担当と話をいたしました。

ガラスを全面換えるのは大変ではないかと思っていたのですが、全面交換ではなく、貼ってあるものを剥がしていく形で可能とのことでした。

ただ、エントランスのデザインについては玄関ということで、設計会社あるいは建築会社と意匠について特に綿密に協議をした場所であるということで、建築の担当者としてはできれば現状でお願いしたいということでした。

しかし、先ほども申しましたように不可能ではないとのことでした。

3の幼児と小学生が同時に参加できるイベントについてですが、あまりたくさんはありませんが、すでにあるイベントとしてはお正月に幼児も小学生も大人もすべて参加できるイベントを実施しております。

今後、幼児と小学生とその保護者も参加できるようなイベントを毎日というわけにはまいませんが、日を決めてお楽しみ会のようなものがないかということ、のびのび子育てプラザで検討しているところです。

4の小学校低学年が参加できるイベントとして、資料2・3に整理しておりますが、今回3階で親御さんと離れたところで何か遊べないかというご指摘をいただきまして、改めてすでに青少年活動サポートプラザや図書館で行っているイベントを再確認しました。

それが資料2・3になるのですが、例えば資料2の青少年活動サポートプラザでは、一番左に年齢を超えた交流を図り子どもたちの成長を支援しましたという形で、実績として明記しております。

上の方からいきますと、気軽に参加できる事業であるとか、3階ロビーを季節ごとに飾りつけしましたということで七夕の飾りつけなど、またゲーム大会や多目的ホールの開放事業ということで多目的ホールをどこも使っていない時間帯に卓球やミニサッカーなどを行っています。

また、図書館についても、通常業務の中では絵本の時間ということで絵本の読み聞かせを行ったり、子どもと本の祭りとしてクイズラリー、季節の行事として工作教室や七夕飾り、夏・秋のお楽しみ会、図書館福袋を実施しており、小学生、幼児、親御さんも参加できる行事をすでにやっているということです。

例えば、この行事に上の子が参加して、下の子はのびのび子育てプラザを利用するということも考えられるのではないかと考えています。

ただ、今回意見をいただいて我々が内部で議論する中で、それぞれがいい事業をしても結局ばらばらでやっていて連携が取れていなかったということがあり、日程調整や時間調整、人の調整をしながらやれば、非常に良い形で効果が倍増するのではないかということで、今回は非常に良い議論ができたと思っています。

実際にどんな形で事業が実施されているのかというのはなかなか普段見ることがないと思いましたが、一番下に写真を付けております。

一番上がお正月のイベントということで、一番左上は宮所長が獅子舞を仕切っているところです。

右側もお正月のイベントで、幼児から小学生までたくさん参加しています。

2段目の雛人形の飾りつけは、小学生から浪人生まで参加しています。

右側はクリスマスのクッキー作りで、真ん中あたりに小学生が参加している様子が写っています。

また、国際交流事業は、誰でも参加してよい事業で、ホームステイの家族が幼児を連れて参加されていました。

右が夏休みの宿題のサポートで、青少年委員がやってくれています。

左下は環境かるた大会で、いろいろな年齢の方が混じってやっていました。

3階の青少年の居場所は、親子、兄弟、学校の先生や友達など、普段の付き合いではない異年齢でしかもよその学校の子とここで交わることができるというのが、非常にいい場所なのかなと思っていますので、これをきっかけにのびのび子育てプラザにもしっかり情報をPRしながら、事業を続けていけたらと思っています。

以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。

1ののびのび子育てプラザを小学生が利用するということについては、もうないということでしょうか。

(事務局A)

そうですね。

議論をしていい結果が出るのであれば意見をお聞きして、と思うのですが、実際に危険だと思うのです。

生まれたばかりの赤ちゃんを連れているところに小学生が走り回るとするのは好ましくないので、ここについては無理ですが、その代わり他のところでなんとか解決できたらと考えています。

ですから、1以外のところで、こういうこともできますねといった話をこの運営協議会でしていただけたらと思っています。

(A委員)

我々が提案した意見について、事務局Aからいろいろご配慮、ご検討いただいた結果をご報告いただきました。

我々が言っていた観点は二つありまして、一つは先ほどのびのび子育てプラザに幼児を連れて来て、そのときについてきた低学年の子の扱いをどうしようかということです。

それについては3階も使えますよというお話をいただいたのですが、親御さんとしてはどうしても目のとどかないところに子どもを行かせるのは心配だという意見がありました。

従って、目のとどく1階の、先ほどのガラスの問題をなんとかしていただくと、非常に安心できるということでした。

同じのびのび子育てプラザの中に低学年を入れることについては、委員さんの中にも「反対です」というご意見がありまして、それは危ないからやめておきましょうというのが半分以上の意見なので、のびのび子育てプラザ内で小学校低学年と幼児が遊んでいただく件については、強い要求はしておりません。

ただ、先ほど言いましたように、なんとか自分の目のとどくところで遊んでほしい、そのためにガラスを透明にしてほしいということと、今のところどちらかという小学生に対するイベントについて、私たち自身もどんなものがあるのか、そこへ小学生も本当に行っているのかというところが勉強不足のところもありました。

これからも小学生も遊べるイベントを開催していただけたらと思います。

その中で私たちもありがたいお話をいただきまして、青少年の方からお手伝いさせていただきますということだったのですが、それについてもフロア委員会の中で話をしました。

ただ、どういってお手伝いが必要なのかを我々が出さなければと思いますので、是非受けて検討しましょうという話をしました。

年に数回しかありませんので難しいかもしれませんが、青少年の方に子育てフロア委員会に来ていただいて、こういうことをお願いしたいのだけどどうでしょうかという議論をする場を設けたらどうかと提案しました。

運営協議会でもフロア委員会が出た意見を非常に前向きに検討していただくとお約束いただいたので、徐々にやれることとやれないことがはっきりしてくると思いますという話をして現在に至っています。

ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。

もう一つ、2のガラスのことなのですが、建築担当者としては変更してほしくないというのは、デザイン上の問題でしょうか。

(事務局A)

デザイン上の問題ですね。

(B委員)

私もスタッフから聞いたのですが、入ってすぐ右が森のひろばという名前になっておりまして、すりガラスをよく見たら森のデザインになっていて、葉っぱの模様がグラデーションでついていまして、本当に森の雰囲気を出すようなデザインになっているのですね。

私もこの前初めて知ったのですが、今言われていることがそのことなのかなと思います。薄い大きな葉っぱが重なり合うような形のデザインになっていまして、森のひろばをイメージしてあのガラスが作られているのだなということがわかりました。

また見ていただけたらと思います。

(会長)

わかりました。

3の幼児と小学生と一緒に参加できるイベントについて、のびのび子育てプラザで検討されるということでしょうか。

(事務局A)

お正月にやったような小学生も幼児も参加できるイベントを、常時やることはできませんが考えていけたらと思っております。

(B委員)

この春には小学生がのびのび子育てプラザに入りたいというような声が比較的少なかったのですが、ただこれから長期間の夏休みなどにお子さん連れで来られる方も多いため、その辺でピンポイントで小学生と一緒に遊ぶ時間をエントランスを使いながら、ラキューン大会やレゴ大会、折り紙、手作りおもちゃをお兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらうような遊びを企画できないかと考えているところです。

(会長)

その辺をのびのび子育てプラザと青少年活動サポートプラザと一緒に連携できるかというところも含めてですね。

(B委員)

一緒にやっていただけたらより楽しくなるかなと思っています。

(会長)

わかりました。ありがとうございます。

(副会長)

今の件ですが、私も時間があるときに朝7時15分～8時15分まで地域で見守りをやっているのです。そうすると、やはり最近新1年生が入られました。パーセンテージにして8%ぐらいの親御さんが朝送って行かれます。

どうしてもと聞くと、子どもがいやがっているからとか、そういう家庭も現状としてあるのです。うちは西山田ですが、たぶん北山田もあると思います。

私がおもうのは、下へ一緒に来られて、3階がありますというのも、幼稚園から小学校に上がったと同時に自立の第一歩になると思うのです。親御さんがどこまでもついていったらだめです。

私の知る限り、ある少年野球チームが30年前から山田にあるのです。このチームは1年生が入りますと、まずバスに乗って大阪市内へ行って JR で大阪市内に行つて阪急で帰ってきなさいと、こういうことを未だにやっているのです。1年生の子を一人で行かせるわけです。野球チームの人が一応見守りながら行きますけれどももしています。

バスで岸部まで行って、岸辺から JR で大阪駅まで行って、大阪駅から阪急に乗るというのはまずできないです。

それを人に聞きながら半日くらいかけて行って帰ってくる、そういうことをやっているチームもあるのです。親御さんも甘やかすのはいいですが、どこかで離していく必要がある。

3階は危険なことは何もないわけですから、できたらそういう意見をお聞きになられるときにそういったことも追加で言ってほしいなと思います。

でないと、今登校拒否の子が増えてきていますし、すべてそうした方がいいというわけではないですが、ひとつお願いしたいと思います。

(B委員)

私たちもお母さんからいろいろ相談を受けるときにも、子どもの力を信じてあげてほしいということはお話しています。

(副会長)

そうなのですよ。それが大事ですよ。子どもはやればできるのですから。親がいつまでも付いて行っていただけです。以上です。

(会長)

3階も安全ですということを書いていけばいいですね。

(A委員)

具体的に3階で遊べるということはわかっていますが、何かあったときに見守ってくださっているという確信が持てれば、3階行っておいでと言えると思います。

例えば青少年フロア委員会の方がちゃんと見てくれているから大丈夫ですといったようなことがあればです。

先ほど副会長がおっしゃったように、親から離れてというのは、親の方がむしろ心配なんだと思うのです。

ですから、今の連携で青少年の方が見てくれているから上で遊ばせてくださいという約束があれば、親御さんも1階にいなさいということはなくなると思います。

まだそれが勝手に遊んでおきなさいというようなイメージがあります。3階は自習室がありますよね。

ですから、小さい子が行ってわいわい騒いだりすると、という遠慮もあるのです。

(副会長)

私たちが会議をしていますと、子どもたちが遊んでいて、注意しに行きます。

そうしたら、まず親が言うことは、おじさんに怒られるからやめなさいと、ほとんどのお母さんがそうおっしゃいます。その辺からお母さんも勉強してもらわないと困ります。

特に西山田の集会所はいろいろなことができますので、遊ぶのはいいけれども親も気を付けてもらわないといけません。

(会長)

ありがとうございます。

(C委員)

質問なのですが、小学校低学年対策とありますが、日程はどうなるのでしょうか。毎日というわけではないですよね。

例えば、青少年の方もフロア委員会の方もサポートしますといったことや、図書館も前回のフロア委員会で吹田朗読パフォーマーの会の方が、たまには絵本の読み聞かせをという話も出ているのですが、いつのことですかというのがわかりません。

開館しているときにずっとだったら誰も身がもたないし、日程を知りたいです。

(会長)

ここに載っているのはイベントになっていますね。

(C委員)

裏はそうですね。資料1を見ると、いつのことなのかなというのがわからなかったの

です。土日とかそういうことなのか。平日は乳児、幼児と小学生とがここで一緒に過ごすことはそんなにかないのかなと思ったのですがどうですか。

(B委員)

土日とか夏休みです。

(C委員)

そういう解釈ですか。

(事務局A)

そうです。

(会長)

夏休みの間はずっとですか。

(B委員)

常時やるイベントというわけではなくて、1回か2回できればとあっていて、うちも主たる業務は就学前のお子さんに関するところになりますのでずっとではないです。

(C委員)

後ほどのフロア委員会の報告とかぶってしまうかもしれませんが、どういった連携ができますかという案をいただいて意見を聞くと、何かできるといいねと最初はなるのだけれども、本来図書館だったら図書館の仕事は何ぞやというところに行きつくのですよね。

のびのび子育てプラザも青少年活動サポートプラザもそうだと思います。

一つの館に三つの機関が集まっていますが、それぞれの部署の本来の役割が先で、小学生の行き場所は大事なのですがあっちもこっちもすることはできないので、現状としてやることをきっちりやった中でそれから広がっていくものができてくるんじゃないかと思ったのです。

ここには書いていませんが、インターンシップを利用してはどうでしょうか。

図書館にも高校生や大学生が仕事の体験をしに来られています。

そういう方たちに関わっていただくとか、教職を目指している方に手伝ってもらうとか、そういうことも低学年の対策に入るのではないのかと思うのです。

それと、やはり上茶谷副会長がおっしゃるのも確かで、子育てのボランティアの方が、今のお父さんお母さんは預けておしまいというところがあるので、自分たちも一緒にのびのび子育てプラザに来てのびのび子育てプラザの先生たちと一緒に子育てをしているという風に考えてほしいという意見が出ました。

預けて自分はその時間気が抜けるというのではなく、一緒に過ごすことが大切だといった意見も出ていました。

ちょっと幅が広すぎて、一つにはできないという気がします。全館を通してボランティアというものはあった方がいいと思うのですがどうでしょうか。

それと時期の問題があります。

例え土日でも朝から晩まで青少年の方にボランティアしてもらおうというのもしんどいことだと思し、どこまで責任を負えるかということも出てくるので、単発でこの時間という形にする必要があるのではないかと思います。

全館の運営ですし、山本館長の思いとかお考え、吹田市の方針もあるかもしれませんが、その辺また考えていただけたらと思いました。

(会長)

ありがとうございました。

のびのび子育てプラザから図書館デビューイベントとか 3 階デビューイベントといったことはできるのですか。

(C 委員)

のびのびさんと図書館とは「おひざでだっこ」などのブックスタートで関わっていただいているので、その辺はすごく連携を取っていただいていると思うのです。

(会長)

それは就学前の子ですか。

(C 委員)

はい。0 歳児からです。

(会長)

そういうきっかけ作りのイベントがあってもいいと思うのです。3 階に来たことがない子もいると思います。

(C 委員)

3 階には畳もあると聞いているので、いいですね。

(副会長)

畳がいいのですよ。我々のひろばでも、例え 2 畳ぐらいの部屋でも小さい子たちなりに工夫して遊んでいました。

それと、図書館の自由に持って帰れる本がありますよね。そういったものを3階に置いてもらってもいいわけですよね。

(D委員)

その辺は今考えておりました、図書館にはたくさん寄贈の本がございます。

子どもさん向けや青少年向けのを分けておいて、ある程度溜まれば3階に置くということも検討しています。

ちょうど本棚が畳の横にある形になっていますので。

(E委員)

今3階デビューイベントとおっしゃったのですが、それはいいなと思いました。

新1年生は4月1日からのびのび子育てプラザに入れなくなるので、4月に近い時期で3階でデビューイベントみたいなことをするのも一つだと思います。

そこからデビューしてずっと3階で過ごすことができるようになるといいなと思います。

(B委員)

この討論が始まって、うちのスタッフが意識をして家族で来られた場合に3階のことを紹介させていただくのです。

そうすることで、土日に来られた方が別れて利用されて、家族で来るとお父さんとお兄ちゃんが上から下りてきて、上で遊んでいたのですという声も聞かれるようになりました。

やはりその辺を意識してどう知らせていくかということが大事なのだと思います。

そうするには、私たちスタッフも、上が今何をしているのかとか、それぞれの取り組みがわかっていないと紹介しきれないので、その辺りでの情報共有がすごく大事だと改めて思っています。

そうしたところに力点を置きながら連携が取れたらいいなと思いました。

それと、今見学会のようなイベントのお話がありましたが、今年の3月に新1年生とのお別れを意識したお別れ会をさせてもらったので、そうしたことを一歩踏み込んで新1年生を招いて館内見学会のようなことができたと思います。

(E委員)

そうですね。そのときに図書館も一緒にできたらと思います。

(B委員)

そうですね。

紹介をしながら親子で館内を回ってもらったらいいのではないかと、お話を聞いていました。

(会長)

ありがとうございます。

(副会長)

そういうことがあると、家に帰っても話がはずんで明るい家庭になるのですよ。

(会長)

いろいろ意見が出ましたが、他に意見はございますでしょうか。

(F 委員)

3階を利用して思うことなのですが、時間帯にもよるのですが高校生年代が多くて小学生が遊べる例えば畳のゾーンが狭すぎると思います。

スペース的に遊ぶことが限られたりするんで、小学生の遊び場所として向いてるかと言われれば否ですね。

(会長)

夏休みも高校生が勉強しに来るのですよね。

(F 委員)

来ます。どちらかというとな高校生がメインのスペースなので、自然に小学生が上に行きづらい環境にはなっていると思います。高校生にもその辺りを理解してもらう必要があると思います。

(G 委員)

確かに小学生がエレベーターや階段で上がってきたときに、大きいお兄ちゃんお姉ちゃんがわあっといっているところに突っ込んで行く勇気はなかなか出ないかなと思います。

(A 委員)

たまに3階に行ってみたりするんだけど、ちょっと子どもだけで行くような雰囲気ではないかなと思います。

(E 委員)

小学校中学年ぐらいがゲームをしに気軽に来ているけど、それより小さいお子さんだけで来るとするのは、難しいですね。

(F 委員)

そうですね。遊んでいる子たちもいるのですけどね。

(A 委員)

おそらく単独では低学年の子は来ないと思うのです。

親御さんが連れてきて、親御さんは下の子とのびのび子育てプラザに入って、自分はど
うするかというと、家に帰っというと言われるか、3階行ってと言われるか。

それで3階に行ったけどなじめないとすると、下に下りてきて早く帰ろうということに
なります。非常に難しい問題なのですけどね。誰かに子守をしてもらえるのかといっても、
そういうわけにもいきません。

(H 委員)

これができるかどうかわかりませんが、日を限定する形でやるしかないかなと思います。

やっぱり低学年がそういうところに行くというのは、心理的な抵抗が大きいと思うので、
やるとするのなら何曜日とか何日とか決めてやるか、あるいは先ほど言われた親子での見学
会をやっていただいて、それでどう捉えられるかというのを聞くのも一つだと思います。

(会長)

安心できる時間をということですね。

(H 委員)

例え1時間でも30分でもそういう時間があればそれだけでも違うと思います。

(E 委員)

3階が小学校低学年いてもいいような感じの、人の少ない時間帯として、何曜日が少ない
とかはあるのでしょうか。

(G 委員)

曜日は全然ばらつきはないのです。

(E 委員)

時間的にはどうですか。

(F 委員)

4時ごろから高校生が増えてくるので、その前だと思います。

(会長)

夏休みは朝からなのですか。

(F 委員)

そうですね。来る子たちは来ると思います。

(E 委員)

図書館フロア委員会でも、図書館の児童サービスのボランティアさんが読み聞かせをしようかと言ってくださっているのですが、高校生がたくさんいたら読み聞かせもしにくいと思うので、時間帯がわかればこちらもしやすいのではないかと思います。

1時から3時ぐらいまでですか。

(F 委員)

そうですね。3時ぐらいから高校生たちがどんどん上がってきます。

(I 委員)

この館として、この時間高校生は外に出てくださいということはできるのですか。

(副会長)

それはこの館の使命に反することになりますよね。夢つながりの意味がなくなってしまう。

(G 委員)

ということになると、中高生と小学生を棲み分けするのは間違っていて、交流できるようにしたいですね。

(副会長)

3階は、3時半を過ぎたら人がいっぱいでしょう。そんなところに子どもが来てもだめだし、実際は難しい。

我々も来たらちょこちょこのぞくのですが、3時半ごろから女子高校生もたくさんいるし、椅子も全部使われているような状態だからね。ああいった時間帯ではとてもじゃないけど小学生が来てもだめです。この写真を見てもわかると思いますけれども、毎日こんな感じでしょう。お母さんなんかは、大体午前中が多いのです。

(B 委員)

そうですね。

(副会長)

午後とかはあんまりないのではないですか。

(B委員)

土日と夏休みの傾向からいいますと、午前中家族で来られるパターンと、家族でお出かけした帰りの夕方に一遊びして帰ろうかというパターンの二つぐらいです。

(副会長)

それでいっぱいだったらしかたないですよ。そのために空けておくというのもどうかというのがあります。

(B委員)

選択肢の一つとしてあるという提示の仕方でもいいのではないかというのは思いました。

(J委員)

お互いに年代を理解して進めるという形で教育はできないのでしょうか。利用の仕方を突き詰めて。やはり今の話で、小さいお子さんたちが3階に来れないという要素を作らないように、利用の仕方を指導して行って、小さい子が来たらちゃんと迎えてあげてくださいよというように。そういうことをしなかったら、いつまでたっても難しい気がします。

(G委員)

小学生的には、3階に上がってきたとして、怖いお兄ちゃんお姉ちゃんがいても、その先におもしろいものがあると思ったら来るのではないかと思うのです。

今のところ、お兄ちゃんお姉ちゃんを超えた先には畳しかありませんので、例えばジェンガがあるとかレゴがあるとか、ツイスターがあるとか人生ゲームがあるとか、そういうおもしろい何かがあったら来るのではないかと思うのです。

だから、来れない理由があるというよりも、来る理由を作った方が建設的ではないかと思います。

(H委員)

私がするとしたらプレイベントみたいな形で1回やってみて、そこでアンケートか何かをとられて、その傾向で何か次に繋がるようなことをやっていった方がいいのではないかと思います。

それが何かというのは考えないといけない部分であると思うのですが。

(A委員)

初歩的な質問なのですが、この館は小学生は対象外になっていたのですか。

(事務局A)

もともと想定はしておりませんでした。

(A委員)

その背景はなんだったのですか。夢繋がりなのに、乳幼児があって小学生が跳んで中学高校だったら繋がってないですね。

何で小学生だけがとんだのかなというのが疑問です。

(事務局A)

もともと、小学生中学生についてはこれまで青少年健全育成事業ということでいろいろな施策を打たれてきました。

吹田市の場合も小学生を対象に児童館などがあったり、こども会の支援を行ったりしてきました。

そういったところは力を入れてきましたが、中学生高校生については抜け落ちている部分じゃないかというのがあったんですね。

その辺にも力を入れていこうということで、青少年の居場所というのがここにできたわけです。

(A委員)

そこに小学生を受け入れようというのが、逆に言えば無理なんでしょうか。

お父さんお母さんが小学生が使えないということに対しておそらく周知されていない。

私たちも何で小学生が使えないのという捉え方しかなかったの。

だから、ひょっとしたらそれでなぜ利用できないのかという話に繋がっているのではな
いかと思います。逆にこの館の決まりをもう少し言うべきなのか。

(事務局B)

もともとの想定はしていなかったということで、今別にどこにも小学生がだめというのは
は言っておりません。

今日お配りした写真は中高生が定期試験や受験シーズンにはいっぱいになってしまい、
子どもが入れる余地がないときもあります。そうじゃないときに特に土日と夏休みにこ
ういった事業をしています。

その中で見てもらったらわかるように、小学生から大学生までが同じテーブルで集えて
いるというのは、そうしたことは非常に大事なことだと思います。

大人が指示しなくても中学生は小学生の面倒を見ていますし、高校生・大学生は中学生の勉強を教えたりしていますね。そういった関係がこの中でできているのかなと思います。

ただ、毎日毎日そうなのかというところとちょっと難しいところがありますので、先ほど山出委員がおっしゃったように、イベント的に触れ合う機会を設けて、行きやすい雰囲気を作っていけたらと思います。

高校生でいっぱいときは物理的に無理ですが、一人でも行けるように、あそこに行ったらお兄ちゃんお姉ちゃんがいるということを小学生が理解するようなイベントがあってもいいのではないかと思います。

(A委員)

それはものすごくいいと思うのですが、やはり小学生専用のスペースが週に何回かあって、そこには大きなお兄ちゃんお姉ちゃんはいないよ、そこに行っておいでというような小学生用のスペースがあるかどうかだと思います。

(副会長)

一応、山田では、北山田、山一、西山田、山三は児童センターに行きなさいということになっているのです。ところが地理的に、北山田は遠くて1年生の子は行けないです。

だから、当時この場所は児童センター替わりではおかしいけれども、暗黙の了解で小学生も来ることが認められたわけです。

(事務局B)

こちらの側としていたところは、青少年というのは小学生も青少年ですが、ただしメインターゲットとしては中学生高校生、ティーンエイジャー以上としているので、あくまで小学生はだめだというふうには言えない。

ただし、利用の中心であったりとか、ゾーンがティーンエイジャーのことを考えているので、小学生に見合うだけのサービスを中心に事業展開するものではない。

でもその要望があってどうしようか、辛いなというところです。

ですから、児童館を造ったわけではありませんので、ここがティーンエイジャーの居場所である、そこは守るべきところであると思っています。

ただし、その隙間をまったく埋める気がないわけではなくて、どうやって埋めたらいいかということで今ご意見をいただいているところです。

今出てきたイベントも、あくまで例えば子供に関わる仕事をしたいというような中学生、高校生、大学生が自ら企画して、そこにお客さんで小学生が来るようなイベントが打てたらいい。

あくまで中高生メインに社会参加であったりとか、自分の進む道について取り組んでみ

ようとか、そういう枠組みの中でお客さんとして小学生が来るとか、そういったことで考えていけるのかなと思います。

もう一つは、3階のフロアが毎週この時間に何かあるというのが打てていないのが課題だと思うのです。

毎週日曜日に例えばのびのびだったらお父さんと遊ぼうとか、第〇〇日曜はこの時間ということでやっているように、毎週の定期的なイベントでこの時間は大学生とか高校生が遊びを考えて小学生を迎えましょうということが定着してくると様相が変わってくるのかなと、そこができていないと思います。

中高生対象でもデイイベントで毎日、例えば5時になったら何かがあるという、そういうことをやってくれたらなと思いますが、利用率が高いものですからフロアが満杯になっているので、新たに打ちにくいところはありますが、時間的なゾーンと場所的なゾーンができたらいいなと思っています。

(C委員)

一つ教えていただきたいのですが、1階のエントランスホールは広いじゃないですか。

あそこを小学生が利用するというのはどうなのでしょう。

今だったら高校生が勉強したりしているのですが、ちょっと余裕があるじゃないですか。

だから、土曜日か日曜日、ここだけは小学生のフロアなのですよというふうにすると、3階まで行かなくてもいいのかなと思うのですが、エントランスホールは危険なのですか。

(会長)

前回もそういう話が出ましたよね。

配置を工夫できないかなということもあったかと思うのですが、どうなのでしょう。

委員の皆さんからも何かありましたらお願いします。

(A委員)

そういう意見も我々のところでも出ているのです。

3階がいっぱい下へ下りて受験勉強されている学生さんもいらっしゃるし、長時間座ってしゃべっている人もいます。

ですから、もう少し机を少なくしたらそういう人たちが減るだろうと思います。

そうしたら、そのスペースが空くんじゃないかと、そういう話まで出ていることは事実なのです。

それと、バギー置き場。あれでずいぶんとっているから、少し移動できたらなとかもあります。

限られたスペースなので、スペースがないですませていたらものごとが全然前に進まな

いのです。

(C委員)

毎日じゃなくて、月に1回とか、そういうところから始めることができればいいではないかと思うのです。

そうすると、昼間は小学生が使って6時以降は高校生が普段通り使う分には問題ないと思うし、その辺の棲み分けをするのはいかがなものなのでしょうか。

(会長)

たぶん3階でも、今、高校生はここに小学生が上がってくると思ってないですね。

だから、そういうこともあるよということとか、1階でこの時間は小学生がいるよということを知っているのと違いますよね。

(C委員)

ですから、異年齢交流をどうしていくかというのがありますよね。

(G委員)

そういった話が青少年委員会の中でも少し上がっていて、今年やってみたいことがたくさん出てきた中に、パラパラ漫画などの工作をするというのと、でっかいスクリーンでテレビゲームをするとか、絵本の世界を再現するという、前回も言ったかもしれませんがグリとグラの大きいカステラを作ったりとか、あとは夏休みの自由研究とか、小学生を巻き込んで一緒に何かやろうという話がけっこう出ているのですね。

そういった内容で議論しているところなので、小学生の問題が何とかなる可能性はあります。

そういうイベントを打つという観点で青少年委員会から協力できたらいいなと思っています。

(会長)

ありがとうございます。

(I委員)

今皆さんの意見を聞いておまして、小学生に関してこの建物に子育て支援の部分と教育の部分と全部を盛り込もうというのはなかなか難しいと思うのです。

先ほど親御さんに対しても子どもたちを育てていくときにどんな風に親の方も成長していくかということも知っていただきたいということであれば、やはり何か積極的に教育的な観点で小学生と中学生と高校生と大人と幼児が繋がっていくイベント的なもので考えて

いった方がいいんじゃないかなと思うのですね。

子育て支援で親が小さい子を遊ばせているときに誰かに見ていてほしいという観点は、ちょっとそこまでしなくていいのではないかと思います。

若い方がいろんなアイデアを出してくださっていて、そういう楽しいことで親も人どう関わっていくかという責任を持ちながら関わっていくという、丸投げではなくてそういった経験をしていくのがいいのかなと思っています。

(会長)

ありがとうございます。親も関わって就学前から小中高と繋がれる、もともとの趣旨に近いのでしょうか。

そういったことが今後できればいいのかなと思います。いろいろご意見いただきましてありがとうございました。

この後フロア委員会からご報告いただきますが、今いただいた意見を事務局で検討していただければと思います。

(事務局A)

ガラスの件についてはいかがでしょうか。

(B委員)

ガラスの件については結論を出していただいた方がいいのかなと思うのですがどうですか。

(事務局A)

できないことはないのですが、デザインの問題と、それ以外にも問題はないのかというところがあります。

(B委員)

あと、うちの職員やお母さん方の反応を聞きますと、やはりあそこが前面に見えてしまうと覗かれてる感があって落ち着いて遊べないのではないかという意見も出ています。

中から外が見えたら安心ではないかというのがあったのですが、逆の視点でいうと落ち着いて遊べないんじゃないかという意見もありますので、単純に透けたらいいということでは解決にならないかなと思っています。

(会長)

では、積極的に外すということにはならないということですよ。

(B委員)

はい。

(副会長)

やるとなったら合わせガラスにしないといけないから、すごくお金がかかるのではないですか。

(事務局A)

ガラスを換えるということは、建築としては考えてないです。かなりお金をかけないといけないので。貼ってあるのを剥がすことは技術的には可能だということです。

(会長)

シールみたいなものですか。

(事務局A)

そういうことです。

(会長)

では、ガラスを触ることは今のところしないということでよろしいでしょうか。

(A委員)

エントランスを中から見られるようにテレビをつけるとかできないですか。

(B委員)

やはり来館された方が落ち着いてほっこり遊べる空間を保証したいということがありますので、あまり監視的なものはどうかという気もします。

今の議論の中でありましたように、いろんな形で館全体がわかって自分たちがどこの居場所がいいかなというのを探して家族で過ごす時間を保証できれば、そういった方向性で解決していったらと考えています。

(C委員)

お母さん同士の横のつながりを持って、子育て世代の人たちが自分たちの縦の子育てで来られるのではなくて、横のネットワークを持っていただければ、今日はうちが小学生担当とか、うちが幼児担当というふうになってもいいのかなと思います。

だから、今はわりとそういう関係ではなくて、自分のとこというふうになりがちなのかなという気がします。

家が遠かったりいろんなことがあるのでしようけれども、もう少し横の繋がりを持ってもらえたらいいのかなと思います。

(B委員)

逆に言うと、そうされている方は来られないと思います。

兄弟で来られていても上の子は来てないなっていうパターンはけっこうありますので、そういうお友達作りができている方はあえて小学生を連れてこちらには来ないで分かれて来られてると思います。

でも家族で来られることで、お父さんと遊ぶの 패턴を見ていても、お父さんと赤ちゃんがうちで遊んでいてお母さんとお兄ちゃんが違うところに遊びに行くという姿は見られるようになってきましたので、家族でいろんな体験をしてもらえたらいいなと思います。

(C委員)

わかりました。ありがとうございます。

(会長)

そもそもこの敷地の中において心配だという話なのですよね。

(B委員)

家族で来なくてお母さんが二人三人を連れて来たときが困るというのが発端なのですが、でも図書館や上での遊び方がわかってくればお母さんも安心できるのかなと思います。最近はその方もあまりいないというのが実感としてはあります。

(会長)

個人的には心配し過ぎなのかなとも思います。外に出るわけではないですしね。でもそういう声がけっこうあるということですね。

では、ガラスについてはこのままということで、カメラについても今のところは検討しないということできたいと思います。

ありがとうございました。いただいた意見を集約して今後の取り組みに生かしていけたらと思います。

それでは、続きまして議事2の「各委員会からの報告・意見交換について」ですが、各委員会より報告をお願いします。それでは、のびのび子育てプラザフロア委員会からお願いします。

(A委員)

今お手元にフロア委員会の議事内容報告があると思いますが、先ほどお話したことがすべてここに書いてあります。

我々もそのことに前は費やしていました。

皆さんがおっしゃったように、フロア委員会そのものが子育てフロアについてあまり知らなかったということもあって、見学会を含めて、のびのび子育てプラザにはこんな設備があつてこういうことをやっていますということをしました。

あとは、今お話ししていただいてコメントしていただいた内容になります。

この議論は続くと思うので、青少年の方からもアドバイスいただいていますので、例えば幼児と小学校低学年が一緒に来る頻度の高い日にイベントや行事をして、そのときだけ青少年の方には申し訳ないけれども3階やエントランスで子どもたちの遊び相手になっていただけないかと思います。

そういうふうに出さないと、いつでもオーケーというわけにはいかないなので、その辺の検討を加えていきたいと、今日お話を聞いて思いました。

また提案して検討していけたらと思っています。

(B委員)

ボランティアの育成について質問があつてやり取りがあつたのですが、お母さん方が子どもたちを3人とか連れてこられたときに子どもの手助けをしてもらえる人がいたらいいということで、ボランティアさんに来てほしいという意見がありまして、ボランティアの育成はどうなっているのかという話や小さい子に触れ合う体験が少ない中で中高生たちが小さい子と触れ合つてそこからそういったことに関わる仕事を目指すとか、そんなきっかけ作りになつたらいいなということで、そういった体験の場をのびのび子育てプラザで保証していけたらという意見があり、これからの課題だと思っているところです。かなり活発な意見をいただいたフロア委員会でした。

資料で出席者が14名となっておりますが、12名の間違いです。訂正していただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございました。

子育てフロア委員会の報告につきまして、ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

(A委員)

青少年の方に都合がつけば会議に出席していただくことは可能ですか。

(G委員)

はい。

(事務局B)

ただ、日時の設定が難しいのではないですか。

子育てフロア委員会のメインの保護者の人たちと学生の時間帯が合わないので、土日にやるとかいろいろ調整は必要かと思います。

(会長)

では続きまして、山田駅前図書館フロア委員会からお願いします。

(C委員)

5月19日火曜日2時から3時に、フロア委員7名と職員3名の計10名で会議を行いました。

主な意見については書かれている通りですのでお読みいただければと思いますが、全体としてはロビーワーカーがいたらいいなあということが言われていました。

それと、宣伝を持ってきました。7月15日水曜日、「知っておきたいスマホと携帯」。

これは、NTTドコモのスマホ携帯安全事務局の方が来てくださるそうです。

「ぐんぐんのぼそう子どもの運動能力」、これは水曜日の3時半から4時半なので、小学生が来てくれたらいい催しではないかと思います。保護者と一緒なので15組にはなりますけれども、ご参加いただけたらと思います。

それと、委員会のときに「つながりタイム」という素敵な資料をいただきましてありがとうございます。

ここでゆいぴあの宣伝をしてもらっていて、いろんな催しがり取り上げられていて、イベントの案内をここにはさんでもらえると他のフロアがどんな事業をやっているかがこの1枚で市報を見るよりもわかりやすく見てもらえるのではないかと思いますので、その辺の工夫をしていただけたらと思いました。

あと、DVDもすごく好評だったとのことだったので、これは著作権の問題があっても見たいものが見られるわけではないですが、またご要望があれば図書館の方にリクエストしていただければいいと思います。以上です。館長から何かあればお願いします。

(E委員)

ビブリオバトルの報告を前にさせていただいたのですが、利用が少ない状況で残念でした。

次回は11月ごろに行う予定ですので、もしよければ青少年委員会の方にもご協力いただけたらと思っています。

(G委員)

どういった協力をすればよいでしょうか。

(E委員)

発表者になっていただくとか、そういう人を3階で勧誘してもらうとかで協力していただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。DVDの著作権というのは、基本的にだめだということですか。

(E委員)

上映権付のDVDを購入する形になります。

(会長)

それは高いということですか。

(E委員)

そうですね。まず、貸出するための著作権の処理をしなければなりません。なおかつ上映権を使うとさらに高くなります。DVDは普通4千円くらいで買えますが、貸出用になると1万円になり、そのあとに上映権で更に1万円かかりますからね。そんなに予算もないのでたくさんは買えない状況なのです。

ただ、DVD上映会のあとにアンケートを取らせていただくと、よかったのでまたやってほしいというご意見をたくさんいただいていますので、検討させていただきたいと思っています。

(会長)

ありがとうございました。青少年委員会からお願いします。

(G委員)

前年度最後にしたイベントが資料の8ページ目のWhaleフェスティバル第2回目なんですけれども、3月29日の1時から4時に開催しました。

小学生、中学生も見に来れるようにということだったのですが、そこまで来た子は多くなかったですね。

大変天気が悪くてすごく来づらかったと思うのですが、出演者がすごく盛り上がってい

て、最後のバンド発表会というところもあったりしました。

今回私がインタビューをさせていただきまして、青少年委員会の知名度も出演団体の半分以上、5団体くらいにあり、嬉しかったです。

その中で出たのが、来年度はどのようなことがしたいかと聞いたらビンゴ大会というのがありました。

新しい試みとして、人狼大会をしまして、これは心理ゲームのようなものです。

8人くらいいてその中にオオカミがいてそのオオカミを当てるというゲームです。

口がうまい人ほど勝てて、それを探るというゲームをして、出演者同士のつながりをメインに考えて行いました。

突然だったので大成功とまではいきませんでした、何とか新しい試みができたと思っています。

ずっと問題になっているのですが、音響や照明を全員でやろうと思っているのですが、活発のスタッフと3階のスタッフや、外部からのボランティアに手伝っていただきました。照明、音響、誘導、MC すべてを青少年委員会でまかなえるように、今年度はがんばっていきたいと思います。

あと、桜の木をモチーフにしたメッセージボードをダンボールで作り、事前に集めておいたメッセージを貼って見られるようにしました。

今後も毎回コンセプトをしっかりと決めて Whale フェスティバルを企画していきたいと思っています。これで Whale フェスティバルの報告を終わります。

次に6ページに戻りまして、今年度第1回目の青少年委員会が5月2日に行われました。前年度に比べて委員が13名、5名さらに増えて、第1回目の印象は盛り上がりになりました。

個性的な方もいて、今後に期待できるような人たちが集まりました。

そこで、今年度の木村委員長に引き継ぎをして、副委員長は高校1年生の野辺委員が引き継ぐことになりました。

またまったく色の違った委員会になるのではないかと考えています。

(H委員)

委員長を交代しまして、副委員長は高校1年生の子になりました。

高校1年生といってもつわものでして、入学して1ヶ月にして演劇部の部長ですし、今回そういったすごい委員が多いんですね。みんながリーダーになれるような感じです。

ですから、そういった全員の個性を生かせるような運営ができればいいと思っています。

まずは年間計画を立てようという話をしておりまして、今まではホールが空いているから Whale フェスティバルをやろうぜという感じだったのですが、今回は1年間計画を立てて、この時期にこれをやるということを組織的にやっていこうと思っています。手始めに

目玉行事の Whale フェスティバルをやることになりました。今年度は12月と3月にやるのが適当なのではないかということになり、それに向けてスタートしています。

12月より前がずっとブランクになってしまうのですが、そこで新しい事業をしていきたいということになっています。

その中で、先ほどお話が出ました小中高連携事業としましてたくさんの案が出ていますので、それらを実行に移していけたらと考えております。以上です。

(G委員)

Whale フェスティバルは取材に来られまして、私たちが取材を受けました。

(会長)

ありがとうございました。ただいま報告いただきました。委員の皆様、ご意見等ありましたらよろしく申し上げます。

(副会長)

これはどこで配布されていたのですか。僕は初めて見ました。

(事務局A)

主にニュータウン地域に配布しております。

(会長)

朝日新聞を取っている家庭に配布されたのですか。

(事務局A)

そうです。

(会長)

Whale フェスティバルの報告をすごく丁寧に書いてもらっているのですが、もう少しポップな感じの報告書もあったりするのですか。

(F委員)

ポップな感じの報告書ですか。

(会長)

毎回まじめだなあと思って。写真入りとか、みんなの声があるような1枚物を貼ってあったりするといいのかなあと思ったりして。他のフロア委員会に合わせた感じで作られて

いるのかもしれないですけど、もう少し明るくてもいいんじゃないかと思ったりしました。

(F 委員)

実は Whale 通信というものを作りまして、毎回の会議の様子をまとめて3階にある Whale ボードに議事録を掲示しようということになり、継続しようと思っております。

(会長)

そういうの、いいと思います。

ありがとうございました。それでは議事の3「その他」について、事務局の方から報告はありますか。

(事務局H)

のびのび子育てプラザから、前回の運営協議会で報告させていただいていた一時預かりの拡充についてのご報告を、宮委員からしていただけますでしょうか。

(B 委員)

来館利用状況にも書いておりますが、26年度が25年度に比べて一時預かりの利用が増えまして、年間1500人の方が利用されました。

毎日予約が取れない状態が続いておまして、受容が高いなということで拡充をしまして、5月18日から定数を4名増やしまして10名で受け入れをスタートしました。

それに伴いまして、お部屋の中に午睡スペースを作りまして、パーテーションで部屋の中を仕切って午睡するお部屋と生活するお部屋に分けさせていただいております。

今のところ、予約の段階での稼働率がまだまだ低いのですが、ちょうど年度が変わって利用者の層が替わっているところなのです。

昨年まで利用されていた方が幼稚園に行かれたりとか、3歳児に上がったということで、今利用の層がチェンジしている段階ですが、少しずつ利用が増えてくるかなと思っています。

またお部屋を見に来ていただけましたら、午睡スペースが確保されているのを見ていただけるかと思います。

(会長)

ありがとうございます。例年5月6月で上がっていくということですね。

(B 委員)

そうですね。ちょうど入れ替わりの時期がこの時期になっておりますが、後半になればまたどんどん増えてくると思います。

(会長)

ありがとうございました。今の報告について質問等がありますでしょうか。その他ございますでしょうか。特にないようですので次に進んでまいりたいと思います。

それでは、最後になりますが、次回の開催日程ですが、事務局よりお願いします。

(事務局H)

運営協議会は概ね3ヶ月に1回開催されておりますので、次回の開催は8月になってまいります。

次回の会議ですが、8月第4週の24日(月)から28日(金)ぐらいで考えておりますが、いかがでしょうか。

(出席確認)

(会長)

それでは、次回の会議は平成27年8月25日(火)で開催したいと思います。本日は以上になりますが、事務局より報告事項があるとのことですのでお願いします。

(事務局A)

I委員が本日付で辞任願いを提出されましたので、ご報告させていただきます。

I委員におかれましては、平成24年7月1日から運営協議会委員を引き受けていただきまして、平成25年1月から平成26年6月30日まで協議会会長を務めていただきました。

本日付で辞任されることとなりますが、正式には教育委員会の内部決済の後となります。

また、この館ができる準備の段階で、私は当時青少年室長でしたが、地域との話し合いの間に立っていただいて非常にご苦勞をおかけしました。いろいろ助けていただきました。感謝申し上げます。

最後に一言お願いできますでしょうか。

(I委員)

ちょうど3年前からこの会合に出させていただきます、大変お世話になりました。

今いろいろとお話をうかがっておりまして、フロア委員会さんはこの館を直接運営されていることで、いろいろお話をされて、それぞれの部署がうまく回るようにということをおやりになっているわけですが、我々は直接この館に入っているわけではありませんが、地域の方からこの館を見るということしかできなかった。

この委員会に出席させていただき、皆さんの御苦勞話とかこういうことをやっているんだということを教えてもらって、参加させていただいていました。

なかなかこの場に来て直接そういう話を聞いてすぐ何か意見が述べられるかといったら

難しいので、あんまり役に立たなかったのかなというふうに思っております。

そういう面で、いろんな未来館の運営の在り方を地区に持って帰りまして、毎月 1 回地区の理事会で報告させていただいていたのが実態です。

今川副館長からお話がありましたけれども、このビルができる更地の時代から、いろいろこちらでお世話になりました。

建築の際には、構想の問題や騒音の問題など、さまざまな問題がありました。

こういう立派な施設ができて本当によかったと思っています。

先ほど私初めて知ったのですけれども、小学生があまり対象になっていないと。一方では、児童館があるけれども、正直北山田地区からは行けません。校区から出るなという指示も学校からあり、交通の問題もあります。

私の地区の連合会から 2 名委員を出しておりますが、毎回委員を出して委員会をしても北山田地区から小学生が行くのは 2・3 人ということで、なかなか活用できていないところがあります。

そういう過程の中でこういった素晴らしい施設ができましたので、ここで何らかの形でそれが吸収できるのかなと思っておりましたけれども、まったく認識不足で小学生がターゲットになっていなかったと聞いてショックを受けています。

小さな子供さんを連れて来るときには必ず小学校 1・2 年生は一緒についてくるわけですよ。

ですから、ここでどんな形でそれが吸収できるのかということについて、今日は本当に勉強させてもらいました。

これは自治会連合会に持って帰っても解決する問題ではないと思いますので、是非ここでうまく吸収していただけたらありがたいなと思いながら聞かせていただきました。

3 年にわたりまして、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

未来館のますますの発展と皆様方のますますのご活躍をご祈念申し上げまして、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。それでは、本日は以上になります。お疲れ様でした。副会長、閉会の挨拶をお願いします。

(副会長)

今日は子育て支援の件でいろいろと意見が出ました。

大きな結論は出なかったものの、宮委員さんの人柄の関係でしょう、山田駅前の子育て支援が人気があるというのは私も聞いています。

いろんなことを聞いていただくのもいいことだと思います。

逆に我々はイエスノーはっきりしていますから断りますが、その辺はいい方が所長をさ

れていますので、これからもますます活動していっていただけたらと思います。

それと、できた当初約 30 万人の利用者がありました。これを見ると今は 38 万人来ている。

今も人集めをとおっしゃっていますけれども、これ以上増えますと中身が薄くなるのではないかと思います。

これも一つの課題として、今後また勉強していかないといけないなと思います。

本日はどうもありがとうございました。